

2005.04.26：防災・危機対策調査特別委員会

「防災・危機対策調査特別委員会」

池田友信委員

私の方から、資料1から順次、お伺いしますが、資料1の津波情報伝達システムの増設について、4行でお示しいただいている訳ですが、今までですと伝達システムのエリア、箇所を前に提示されておりますけど、今回増設する分は何カ所でどういうエリアになるのか、地図表示はお示しいただけないのですか。

防災安全部参事兼防災安全課長

今、10カ所以上にはなるかと思っているのですが、今、精査させていただいているところがございますので、計画ができ次第、示したいと思っております。

池田友信委員

それは、場所とかを決めて、増設の部分で予算を組んだのではないのですか。

防災安全部参事兼防災安全課長

ある程度の場所は想定させていただきましたけれども、これからもうちょっと精査する場所がございますものですから、そういう意味でお伝えさせていただいたところがございます。

池田友信委員

いつまでできるかお示しいただければいいかと思うのですが、今はわからないのですか。

防災安全部参事兼防災安全課長

現在のところ、まだお示しできるまでの精査ができていませんので、後ほどまた報告させていただければと思います。

池田友信委員

次に、防災訓練の件なのですが、防災訓練で津波を今回初めて訓練に入れてやるということですが、どんな形の訓練になるのか。

防災安全部参事兼防災安全課長

具体的な流れに関しましては、これから区と相談させていただくことで、項目

だけ決めさせていただいて、具体策については、次の段階と考えているところでございます。

池田友信委員

多分、設置した機械も使ってですね、サイレンとかを鳴らしながら、津波の襲来という伝達関係もここで初めてこのシステムが活用されると思うのですが、その内容も地域で知っておかないとですね、ぜひ地域の方に事前に説明をしながら、訓練の中で有意義に施設のあり方についてやっていただくと同時に、この期間の中では、先ほどのエリアの中での増設という部分は対象に入れてやられるのですか。

防災安全部参事兼防災安全課長

先ほどの津波情報伝達システム増設部分に関しましては、宮城県の第三次想定に関しまして河川の中の被害想定でございまして、地上部ではございませんので、今回の防災訓練の中では、その浸水想定区域、避難をする想定区域に関しましては、変更するとか、そういうことではございませんので、よろしく願います。

池田友信委員

聞きたいのは宮城野区、若林区を含めてですね、先ほど資料1で説明されたように、河川を遡上する津波の被害を想定しながら増設することになるし、被害想定の中にも今まで入ってないわけですよ。今回そういう津波ということを考えていくと、河川の状態も一応沿川を含めて、どんな形で対応したらいいのかということが問われるわけですよ。訓練の仕方として、その辺を対象に入れるのか入れないのかということをお聞きします。

防災安全部参事兼防災安全課長

現在のところ、河川の関係の避難訓練は想定しておりません。

池田友信委員

その辺は、せつかくですから、市民に意識を持たせる意味で、検討してみた方がいいと私は思うんです。

最後に洪水のハザードマップ、被害による予測地図、ハザードマップというのが出されて、これは初めてだと思うのですが、遅きに失したと私は思うんですけど。大分、広域的な部分がありますが、細部の部分についてもですね、各町内がわかるような形で、つくっていただきたいというのが一つと、これを単

純に見て、市民がこの赤い矢印で避難をするという方向は、この方向でいいのかなという部分があります。例えば、中野栄の住民が延々とこちらにくるわけですね。お隣の多賀城市さんにも高いところはあると思うのですが、こういう災害ハザードマップというものは、行政エリア内だけでやるのではなくて、隣接の広域的な災害、洪水の原因という水は、仙台市だけに降った雨であるいは水で洪水になるのではなくて、この辺の地域は、多賀城から流れてくるものも、すごくあるわけですね。そうすると、これからの災害対策、こういう状況も含めて、隣接の広域行政の中で、どんな避難場所に、どういう方向に行くと、その時はよろしくと、こういうような行政間の中での協力、調整を経て出すということをししないと、私は現実的な避難にならないと思うんですね。この辺は、多賀城市と調整か何かされたんですか。

防災安全部参事兼防災安全課長

まず、町内会まで見えるかどうかはわかりませんが、これをもう少し拡大した形で、区版をつくっておりますので、その中でごらんいただけるかとは思いますが、それから、この地図の作成に当たしまして、具体的には多賀城市とは調整はしておりません。実は、多賀城市の地域に関しまして色は塗っていないのですが、多賀城市の方も氾濫している形になっておりますので、そういう意味で、そこを一応考えた形で赤線を引かせていただいたということでございます。

池田友信委員

私は、地図としては、多賀城市の分も色分けしながら、ここからは多賀城ですよということがわかりながらも、避難する場合は広域的な形で避難できるようにしないと、現実的にならないのではいかなということが一つと、それから、郡山とかでは具体的に町内ごとに具体的にどの橋を渡って、こういうふうにしてこっちの方とわかるように地域ごとにつくっておりますから、これはおっつけ、そういう方向で考えると思うのですが、やはり地域ごとの部分をぜひ検討していただきたいというのが一つです。

それからこれは消防の方というよりも、これからのまちづくりの中で考えていただきたいのは、宮城野区と若林区が常にこういう危険性をはらんでいるという状況に、やはり都市づくりの中で、これを何とか解消するための安全なまちをつくるためにどうすべきかということのをこれから考えていかなければならない。強く、これは消防の方からも都市整備局なり建設局の方に言ってですね、特に下流地域に対する上流のあり方ということについて、まちづくりの中で雨水調整なり、そういう機能をもっと増勢しないと、こういう下流地域が、いつまでも水害に対する危険性が解消できない状況ではいけないので、この辺につ

いてもぜひこれを機会に、全庁的に検討される雨水対策委員会が庁内の中であると思うのですが、そこでもう少しまちづくりに対する雨水調整池のあり方を強く訴えていただきたいということが、特別委員会からも出たということも含めて、ぜひ報告していただきたいと、委員長にも特にお計らい願いたいと思います。よろしく申し上げます。

委員長

なければ、以上で報告事項を終了いたします。

それでは次に、これまでの委員会における協議事項等を踏まえた、委員相互の意見交換を行いたいと思います。

皆様の机の上には事前に送付しておりましたが、これまでの本委員会における協議及び意見交換等を踏まえた委員会報告書の正副委員長（案）及び活動経過を本日もお配りしております。

委員会報告書や本日も冒頭で御報告いただきましたが、本委員会のテーマに関しまして、1年間のまとめということでさらに御意見がございましたらお願いしたいと思います。

前回、皆様方からある程度個々の御意見をいただきました。それから、今日は最後の委員会となります。その中で、委員長報告を踏まえた中で、これもまた取り入れてほしいとか、何かそういう新たな御意見がございましたらお願いいたします。

池田友信委員

できればですね、きょうの委員会の中で、先ほどハザードマップが出されたんですけど、その中での水害の部分について、上流部の雨水調整の部分について、ぜひ宮城野、若林の下流地域に対する、まちづくりに対する取り組みをすべきだという、委員会としての意見として、織り込んでいただければ。